

月 都響
刊
2022 February



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中は話さないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
2/23

Subscription Concert

第943回定期演奏会 C シリーズ

指揮／大野和士

フルート／柳原佑介（都響首席奏者）

ドビュッシー：舞踊詩《遊戯》（18分）

ニールセン：フルート協奏曲（19分）

ラヴェル：高雅で感傷的なワルツ（17分）

R. シュトラウス：歌劇『ばらの騎士』（23分）

東京都交響楽団

PROGRAM NOTE

19世紀の終わりから20世紀の始めにかけて、作曲家たちは大きな編成のオーケストラを用いて、ゴージャスな響きをもった作品を作るようになりました。今日のコンサートで演奏される曲は、すべて20世紀に作られました。カラフルなオーケストラ・サウンドを楽しめる作品ばかりです。

ドビュッシー：舞踏詩《遊戯》

フランスの作曲家クロード・ドビュッシー（1862～1918）によるこの音楽は、バレエのために書かれた作品です。とある夕暮れのテニスコートに、一人の青年と二人の娘が現れます。踊ったりはしゃいだりしながら、3人は恋の駆け引きに夢中です。そんな若者たちの恋のゲーム、そしてテニスとにちなんで『遊戯』と名付けられたこのバレエは、パリで人気となっていたロシアのバレエ団「バレエ・リュス」によって、1913年に上演されました。ドビュッシーは、このバレエ団から「音楽を作ってほしい」と頼まれて作曲をしましたが、これが彼の最後のオーケストラ作品となりました。どこかフワフワとした雰囲気をもったメロディーやリズムが次々と登場します。



ニールセン：フルート協奏曲



作曲者はカール・ニールセン（1865～1931）という人です。初めて聞く名前かもしれませんが、でもアンデルセンという人の名はよく知っていると思います。「人魚姫」や「マッチ売りの少女」などでおなじみの、デンマークの童話作家です。ニールセンはアンデルセンと同じデンマークの作曲家です。アンデルセンと同様に、ニールセンも貧しい家庭の生まれでしたが、ヒューン島の美しい自然に囲まれてのびのびと育ち、子供の頃から優れた音楽の才能を発揮しました。彼の音楽は生命力に溢れ、ユーモアがあり、温かな雰囲気もたたえています。フルート協奏曲はニールセンの代表作の一つで、1926年に作られました。曲は二つの楽章で成り立っており、細やかに表情を変えてゆくフルートと、鮮やかに応えるオーケストラとの対話が印象的です。

ラヴェル：高雅で感傷的なワルツ

ドビュッシーと同時代のパリで活躍したモーリス・ラヴェル（1875～1937）は、「管弦楽の魔術師」と呼ばれるほど、さまざまな楽器の扱いがとても上手で、オーケストラからカラフルな響きを引き出すことを得意としていました。ラヴェルは自分のピアノ曲をオーケストラ用に編曲することも多く、この『高雅で感傷的なワルツ』もそうした作品の一つです。オーケストラ版にはバレエが付けられ、『アデライード、または花言葉』という作品として上演されました。



ちょうどドビュッシーが《遊戯》を作曲したのと同時期のことです。さまざまな表情をもった7つのワルツ（3拍子の舞曲）と、それまでのモチーフがところどころに登場するエピローグの、全8曲で構成されています。

R. シュトラウス：歌劇『ばらの騎士』組曲

歌劇『ばらの騎士』は、ドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウス（1864～1949）の作品です。物語の舞台は18世紀のウィーン。田舎貴族のオックス男爵が、美しい婚約者ゾフィーに結婚のしるしとして銀のバラを贈ります。若い貴公子オクタヴィアンが「ばらの騎士」として使われますが、ゾフィーとオクタヴィアンはお互いに一目惚れ。オックス男爵はフラれてしまいます。オクタヴィアンにも貴婦人の恋人がいましたが、若い二人のために歳上の彼女は身をひきます。そんな上流階級の人々の恋物語を描いたオペラには、うっとりするようなメロディーや華やかな舞曲などがたくさん登場します。組曲では、オペラの中から特に美しい音楽が取り出され、メドレーのようにつながられています。



文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 大野和士



©Rikimaru HOTTA

都響およびバルセロナ交響楽団の音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督を務めている。2022年9月、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督に就任予定。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。これまでに、ザグレブ・フィル音楽監督、モネ劇場（ベルギー王立歌劇場）音楽監督、フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。フランス批評家大賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス2017」を獲得。自身は2017年6月、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受章、リヨン市からリヨン市特別メダルを授与された。2021年に指揮した『ニュルンベルクのマイスタージンガー』はクオリティの高い記念碑的な公演となり、大きな話題を呼んだ。

フルート 柳原佑介

東京生まれ。9歳からフルートを始める。東京藝術大学卒業。石橋正治、金昌国、パウル・マイゼンの各氏に師事。1993年全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位。以降多数のコンクールに入賞。1998年には学内にて安宅賞受賞、日本フルートコンクール第3位、日本木管コンクール第1位、日本音楽コンクール第2位・松下賞受賞。

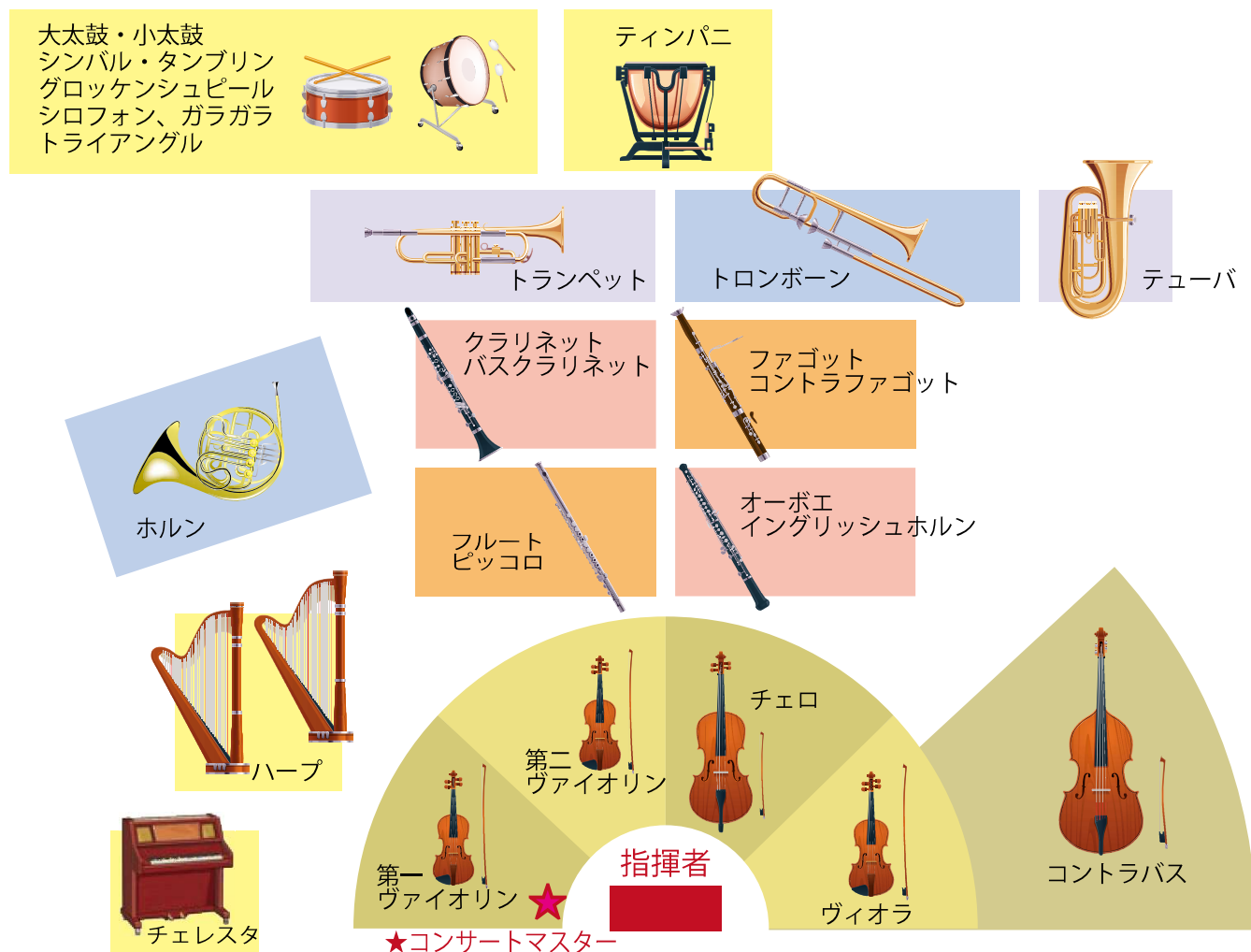
日本フィルを経て、2004年より都響首席フルート奏者。東京藝術大学、武蔵野音楽大学非常勤講師。

©T.Tairadate



オーケストラ配置図（2月23日 第943回定期演奏会Cシリーズ）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してね。



TMSO 東京都交響楽団

東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。



©Rikimaru Hotta